

史跡ガイド

1 河西支庁跡



総合体育館の建つ場所は、かつて河西支庁（現在の十勝総合振興局）があり、行政の中心地だった。近くの交差点にも注目！ここは十勝測量の基点で、帯広はこの交差点で住所の東西南北が変わる。

〒080-0030
北海道帯広市大通北1丁目
MapCode 124 654 564*83

2 依田勉三像



帯広入植のさきがけ依田勉三の像。戦争中に金属供出で失われるも、10年後に再建。どちらも中島武市さんが建設に携わり、地域の象徴的存在としての依田勉三イメージを定着させるきっかけを作った。

●昭和16(1941)建造、昭和26年再建
〒080-0804
北海道帯広市東3条南2丁目
MapCode 124 655 288*20

3 宮本商産旧本社ビル



宮本富次郎さんが建造。肥料や農機具、ガソリンなどの販売で農産地帯を支え続ける会社の旧本社ビルは、地域発展の象徴的存在。

●大正8(1919)年築
〒080-0012
北海道帯広市西2条南5丁目3
MapCode 124 624 828*28

※現在は「さかい珈琲帯広店」として利用されています。



4 旧三井金物店



金物店の店主三井熊平さんが建造。初売りの際は農家の人々が馬そりでお店の前にやってきて、まだ前の日なのに、がまんできずにドンドン戸をたたくほどにぎわっていたそうだ。

●大正元(1912)年築
〒080-0010
北海道帯広市大通南5丁目17
MapCode 124 625 780*50
※内部は公開されていません。

5 旧岩野商店



もとは高橋寛次郎さんのお店で、昭和27(1952)年から岩野茂平さんが所有し、家庭金物や縄などを販売。帯広商人の息づかいを感じさせる建物だ。側面の印「ヤマニ」もお見逃しなく。

●大正2(1913)年築
〒080-0801
北海道帯広市東1条南5丁目17
MapCode 124 625 784*60
※内部は公開されていません。



6 渡辺勝・カネ入植の地碑



明治16(1883)年、晩成社の一員としてやってきた渡辺勝・カネが住んだ場所。石碑の下部に注目！ 閉炉裏のあった場所が正確に書いてある。近くのお店の迷惑にならないようにしながら探してみよう。

〒080-0810
帯広市東10条南5丁目付近
MapCode 124 627 840*44



7 旧横瀬邸



昭和3年～8年に帯広町長を務めた横瀬農夫さんが建てた。昭和23年頃からは、島田病院院長だった島田五一さんが住んだ。町長さんやお医者さんなどまちの有力者が暮らした家。

●昭和7(1932)年築
〒080-0804
北海道帯広市東4条南8丁目13-1
MapCode 124 625 503*76
※現在は「そば切り工房 久呂無木」の店舗として利用されています。

8 旧双葉幼稚園



二代目園長白田梅さんによって設計された。丸い屋根に三角の出窓、八角形の遊戯室などユニークな木造建築の園舎から多くの卒園生が育った。

●大正11年(1922)築
〒080-0804
北海道帯広市東4条南10丁目
MapCode 124 625 265*80



大通り → 大通りは、明治26(1892)年に整備された帯広はじめのメインストリート。西2条通りは、明治33(1900)年に整備。明治38年に帯広駅ができると駅前通りとして発展し現在に至る。2つの通りやその間に走る小路に商店や飲み屋街が並び、十勝の一大消費地を形成してきた。

火防線 → 帯広のまちを斜めにつらぬく道路。移動に便利と考えられたためか、測量当初から存在していた。

電信通り → 明治30(1897)年に電信線や電信柱ができたために、こうした名前がついた。もとは晩成社の敷地で、晩成社は移動に便利なこの場所を国に寄付したことで通りが生まれることになった。



徒歩で、自転車で、車で。帯広の歴史を巡ろう。